

第176回 友の会 膳所城址公園

～琵琶湖の水鳥観察～

日時 2020年1月19日(日) 10時～14時

場所 滋賀県大津市 膳所城址公園(京阪膳所本町駅下車)

膳所神社(集合場所)～膳所城址公園～大津湖岸なぎさ公園(解散場所)

天候 晴れ

参加者 一般43名(子供3名) スタッフ20名 合計63名

確認できた水鳥

バン、アオサギ、キンクロハジロ、ホシハジロ、マガモ、コガモ、ヒドリガモ、ヨシガモ、カルガモ、オカヨシガモ、ユリカモメ、カンムリカイツブリ、カイツブリ、オオバン、カワウ、ダイサギ、コサギ、ハシビロガモ

その他の野鳥

スズメ、ハシブトガラス、トビ、ハクセキレイ、カワラヒワ、カワセミ、アオジ



お昼寝中のカモ達をゆっくり見られました

令和初の新年の観察会です。良い天気恵まれ、風も比較的穏やかで観察しやすい一日になりました。

集合場所は、京阪電車膳所本町近くの膳所神社です。氏子だと思われる方々が、鉄製格子の大きな火床が設置されているところで手持ち無沙汰に待機されている様子があり、どんと焼きか火渡りの準備かなと思いつつ、新年を改めて実感しました。

新年第1回目ということで、友の会の方々の年初の続きや、清水代表の挨拶で始まるといういつもと違うスタートです。

観察用の望遠鏡の用意を確認して、琵琶湖岸の膳所城址公園へと向かいました。神社境内で、セキレイ、アオジ、ハシブトガラスやスズメ等に出会っていましたが、今日の主人公の、琵琶湖のカモ達の居るところへ移動です。

公園の水辺周りは、水面の輝きと相まって非常に明るい日差しで満たされていました。風があり寒いのですが、低い角度で差し込む太陽の光が目に入ってきます。

水面が眩しく、観察がしにくくなるのではと思っていましたが、カモ達が岸边近くまで寄ってきてくれましたので、ゆっくりじっくり観察出来ました。



子供たちは打ちあがっている魚に興味津々



鳥を解説付きでみられて最高！！

確認できた水鳥たちは、カイツブリ、カンムリカイツブリ、キンクロハジロ、ホシハジロ、マガモ、ハシビロガモ、ヒドリガモ、ユリカモメ、カワウ、バン等でした。いつものおなじみの顔ぶれです。

雄は、繁殖期特有の目立つ色合いになって雌の気を引こうとしてめいっぱい着飾っています。カップルが成立し、北のシベリアの大地の水辺で子育てをするために戻っていくことでしょう。

潜ったり浮かんできたりしていたカイツブリは、水の中に潜ってエサを食べるのが得意なので、潜ってしまってから 30 秒ほどしないと水面に戻ってきません。潜っている時間が結構長いので、大丈夫かな？とか、もうどこかに浮かび上がっていないだろうか？と、余計な心配をしてしまいました。

カモの仲間のキンクロハジロやホシハジロは、カイツブリ同様に完全潜ってエサを食べています。陸に上がるよりも、水の方が好きな種類のカモ達だと実感しました。

近江大橋西側の船だまりの船の上には、数羽のマガモが休んで居ました。潜水が苦手なカモの仲間なので、水中より陸地の方を好むのかと思いました。

この船だまり辺りの水辺や石垣に生える植物に、濃いピンク色のジャンボタニシ(スクミリンゴガイ)の卵塊が沢山ついていて、その分布の広がりを実感し、琵琶湖の生態系に悪い影響がでてくると気がかりです。

さらに進むと、北へ延びる白砂の浜辺(大津湖岸なぎさ公園)があり、遠くの方にコガモ、ヒドリガモが確認できました。足下にあったクローバーの葉っぱがなくなり茎だけになっていたのが、植物を食べるのが好きなこのカモ達が食べたんだろうなあと思いました。気温は低く風もあったのですが、カモ達をゆっくり観察することができました。

(狩野)



ユリカモメ



オカヨシガモ (小紋柄みたいにきれいな羽)



友の会恒例の店開き子どもが拾った
ヒシの実もありました



公園内にはメタセコイア・ラクウショウ・
ヒマラヤスギなどもありヒマラヤスギの下では
みんながシダーローズ探しに夢中でした